

# な か ま

発行  
佐倉市立中央公民館  
編集  
なかま編集委員会  
〒285-0025  
佐倉市錦木町 198-3  
電話 (043) 485-1801

声は枯れども人生に張りを----- 池田 博人 会心の撃----- 若佐 秀雄  
三年祭での厚意----- 檀淵 俊 月光下の観音さま----- 岡本 治之

## 北里柴三郎の恩師・恩人

### 関 とも子

帰国する。

去る4月9日財務省は紙幣の図柄を一新すると発表した。1万円札は「日本資本主義の父」と呼ばれる渋沢栄一、5千円札は女子高等教育の先駆者津田梅子、そして千円札は「近代医学の父」北里柴三郎である。佐倉市民にとって、新5千円札の津田梅子は佐倉藩士小島家の生まれで幕臣津田家の養子となった津田仙の娘として知られており、うれしい限りである。

て来日した彼は、1871年より熊本医学校での教育に従事した。その時の北里に対し「国民を健康にし、国家を守り発展させることも重要」と諭した。マンズフェルトの助言により北里は東京医学校に進み、卒業後内務省衛生局に入局。

さて、先般「北里柴三郎記念館」を見学し、森事務長のお話を聞くことができた。

1885年長崎で大流行したコレラの調査で予防対策の業績を挙げたことにより、特例としてドイツ留学が急遽決定。ベルリンでは生涯の師となるローベルト・コッホ博士に出会う。コッホ博士は「病原細菌学」という分野を開拓した世界的な細菌学者で、1905年ノーベル生理学・医学賞を受賞している。彼も又、北里に対し「研究するだけでなく、実際に応用して人類に役立つことが学者の任務である」と教えている。6年間のドイツ留学中、北里は破傷風菌を取り出す純粋培養に成功。更に血清療法を確立して日本に

1853年熊本県阿蘇郡小国町で生まれた北里は、藩校時習館を経て熊本医学校へ入学。当時彼は医師になるつもりはなく、軍人か政治家になる為に語学を学ぶのが目的であった。そこで出会ったのが、オランダ人医師マンズフェルトである。

尚、佐倉日蘭協会では、来る8月24日(土)市立美術館にて北里柴三郎記念館、森事務長の講演会を予定しています。(詳細はこうほう佐倉8月1日号参照)

(編集委員)

長崎出島のオランダ館の医師として功。更に血清療法を確立して日本に

## 声は枯れども

### 人生に張りを

#### —先輩との再会から—

数年に一度開かれる学生時代の合唱団の集まりに、時折参加するようになったのが今から20年程前の事である。都内の思い出の地をのんびり散策し、その後は懇親会で旧交を温めた。近況を語り合う中で、一人の先輩から佐倉市に住んでいるとの話があった。当時、私は隣の市に住んでいたのですが、私にも留めなかった。9年前に志津に越してきた時、会にご無沙汰していた事もあり先輩のことは忘れていた。

ところが、5年前の6月に志津駅で偶然にも出会った。

「合唱団に入っているが人数が足りないので入団しないか」と誘われた。その時は仕事をしていたので、仕事を辞めたら入団しますという事で別れた。翌年退職し約束通り入団する事になった。指

導者と伴奏者、男性6名女性7名の小さな合唱団である。簡単な自己紹介の後すぐに練習となったが、40数年ぶりで楽譜も読めなくなっているし声も思うようにならない。こんなはずではと思ったが後の祭りである。指導者からは耳で覚えなさいと言われ、毎回ボイスレコーダーに録音し耳学で練習している。2時間の練習の後には心地よい疲労感があり充実感も覚える。

発表の場は毎年2回、6月の千葉県合唱祭と秋にある同門の発表会である。県の合唱祭では中学生・高校生・大学生等の歌声からエネルギーをもらっている。また、同門の発表では80歳を過ぎていると思われる方のピアノ演奏に感動している。私も年だと思わずに、いつまでも日々の生活にチャレンジしていきたい。

(西志津 池田 博人)

## 会心の一撃

私は、たまにゴルフをやります。ゴルフのルールは至って簡単です。足元に置いたタマゴ大の白球をゴルフクラブでひっぱたいて、数百メートル先に埋めた小さなカップと称する丸穴に、出来るだけ少ない打数で入れると云うわかり易いルールです。

始めはティーグラウンドと呼ぶ出発地点から第一打を放ちます。途中の草が刈り込まれたフェアウェイを通って、カップが埋まっている芝張りのグリーンまで打球を飛ばします。誤ってフェアウェイ以外に打球が行くと、ラフと称する草が伸び放題の場所にゴルフボールが捕まり、第二打が打ち難くなります。またフェアウェイの周辺は池あり谷あり林ありで、簡単にはグリーンにたどり着けないようになってはいるばかりか、グリーンの中にはバンカーと称する砂

場が配置されていることが多い。簡単なカップに到達できないような仕掛けになっていきます。あれこれと苦労してやっとの思いでグリーンまでたどり着き、パターで球を転がしカップインしてようやくホールアウトとなります。

これを18番ホールまで次々回って1ラウンド終了。およそ半日の野外活動です。

気候が良い時期に山野を巡る爽快さや、会心の一撃で放たれた白球が青空に吸い込まれて行く様子は、ゴルフならではの醍醐味です。前に置いた白球をゴルフクラブで打つと云うだけの単純な動作にも関わらず、手くそなため会心の一撃は滅多に出るものではありませんが、ごくたまに体重を乗せて打球の芯を捉えてヒットした瞬間に伝わる手応えと云うかその打球感には、まさに至福の感触です。

(南ユーカーが丘 若佐 秀雄)

## 三年祭での厚意

夫の三年祭で熟饌じゆくせんを供えた。

海魚は腹を川魚は背を神前に向けた。酒、餅、海藻、野菜、菓子、果物を選び出した。白縮緬ちりめんの着物に黒縹しゆすの帯で装い、手水で額ぬかつき玉串拝礼して謝恩詞しゃおんじを唱えた。水鳥と野鳥は揃そろわなかったが生前の好物は高くついた。

アルバムを重ね捲めくつてみる。金儲けの巧い人だとよかったわ、物事はとことん話し合える質でなかった。妻の親にも同様に手厚くして貰もらいたかった。(来世も供に)の一人合点はぐらついた。

ところでわたしをどう思っていたらうか。90歳でボケなかったから聞けばよかった。

「うるさい、なに寝惚ねぼけてんだ」と云いい紛まらしただろう。妻の両手を己の頬ほにあて甘い懺悔ざんげなんて望のぞむべくもないがずいぶん乱暴な返答こたへだつて、痼しこりを残のこさない、引きずる言葉がなくて暖さが伝わ

った。リビングウイル(生前の意思)や公正証書と余情よじやうに対して神界の靈魂しんこんを誘よるのは慎しんしもう。

黄昏たふし。行手に道標しるべが灯ともった。

神饌しんせんをお撒さげした。直会なおらいとなり、盃さかずきを捧たげて健康を賜たまりたいと、ひたすら祈いのった。

もうなんにも怯ひるむことはない。

美容師として取り組くんでいる自力を頼たのりに生き抜く気構きくえが出来た。

時代祭りの裏方を務め続けよう。お伊勢公園のラジオ体操は5年に及び、仲間や当店のお客様方と屈託くつたくのない日を重ねて、米寿の峰を極ためたい。

奥歯をくいしばつたら、足の先まで温もつてきた。談談とした夫の声こゑがする。「大丈夫、大丈夫」張り詰めた欲望はじわじわ眠気ねまに包つつまれた。

(王子台 榎淵 俊)

※三年祭・神式で葬儀をした後に行う神式法要で三年目に行う故人を偲しのび霊として遺族を守ってもらうよう祈る儀式。

## 月光下の観音さま

寿宝寺じゆほうじは近鉄京都線三山木駅みやまぎ

から北東へ徒歩5分、京都というより奈良に近い南山城にありますが。この寺の本尊十一面千手せんじゆ千眼観世音菩薩立像は重要文化財ですが、国宝の葛井寺かゐい(大阪)、唐招提寺(奈良)とともに千手観音の三大名作とされています。

拝観には予約が必要で、はじめ訪れたころは、拝観者はほとんどいませんでした。

この寿宝寺の観音さまは、頭上に十一面をいただき、左右にはそれぞれ五百の手があり、仏像や剣、法具等とうぐをもち、持ち物のない手には墨で目が印いんされています。住職の奥様の説明では、これは私たち全ての人々の苦しみくるしみを、その目で見、その手で救おうとするお姿であると言うことです。

昔、千手観音は藁葺わらづききの本堂に祀まつられ、村人の法要は夜に営

まれていたそうです。それは月明かりで拝む観音さまがいちばん優しいからです。奥様はその雰囲ふんい気を味わえるように、観音堂の扉を閉め、真つ暗くらにして蛍光灯をつけました。なんと光に照らされた観音さまは、先ほどまでの厳げんしい顔つきとは一変して、優しいお顔の表情へいじやうになっていました。驚おどきました。これほどの変化が光によってもたらされるとは…。感動かんとくしました。

村人が月明かりでお酒を酌しやくみ交まわっていたというその気持ちがよく解ときました。そして、ここまで見通して造つくらした仏師の技と信仰心のすばらしさに感服かふくしました。

奥様は赤ちゃんを背負せおって一生懸命説明してくれました。その後テレビで放映されてから拝観者は増えたそうですが、今はまた静かです。昨年5度目の拝観の時ときには男の子は小学校に入い学がくしていました。

(新白井田 岡本 治之)

## 8月の黒板

# 『なかま』の原稿を募集しています！

**『なかま』の2ページと3ページは佐倉市民の皆さんから投稿いただいた記事を掲載しております。**

『なかま』の原稿は、自由テーマを原則としています。「趣味」、「旅の思い出」、「祭り」、「私のふるさと」、「私の健康法」など何でも構いません。また、日常での出来事で発見したこと、気付いたこと、経験や感想などもご随意にお書きください。

原稿の字数は、650字（13字×50行）以内です。また、掲載するにあたり常用漢字への変更や、句読点等修正させていただくことがあります。

問い合わせ先

佐倉市立中央公民館 TEL: 043-485-1801 FAX: 043-485-1803

〒285-0025 佐倉市鐺木町 198-3

E-mail: chuo-public@city.sakura.lg.jp

URL: [http://www.city.sakura.lg.jp/soshiki/16-1-0-0-0\\_1.html](http://www.city.sakura.lg.jp/soshiki/16-1-0-0-0_1.html)

『なかま』は佐倉市民カレッジの学生と卒業生で構成される編集委員が編集を行っています。

### わくわく道

今年5月に「平成」から「令和」に改元され、時の流れの速さを感じた。昭和の団塊世代で東京に生まれ、結婚してから昭和50年代に佐倉に転居してきた。

その頃はまだ、ユーカーが丘の駅も無く、自宅から志津駅までオートバイで行き、京成線で都内の会社まで通勤していた。

毎晩遅くまで残業して帰宅も深夜となり、佐倉市内を散歩するなど

でも考えられない忙しい暮らしを長年過ごして来た。

平成も中頃になって少し余裕もでき、登山やハイキングもするようになった。

ユーカーが丘モノレールの内側には静かな里山が残っており、季節の草花が咲き乱れる私のお気に入りの散歩道である。

これから過ごす令和の時代は、のんびり暮らしたいと思う今日この頃である。

(貝沼 憲男)

### あとがき

「佐倉わくわく体操会」は、高齢者福祉課が推進し、65歳以上を対象に、年齢を重ねても地域で住民が主体となり、自主的、継続的に介護予防に取り組むことを目的としている。週1回集会所などに集まり、口腔体操や脳トレ、手や足に重りをつけ、ゆっくり行う体操で筋力や体力のアップをはかっている。

では、新学期早々体組成の測定をした。総合的な判定は運動不足と出たが、下肢の筋肉量だけは数値が高く驚いた。普段はウォーキングくらいで特別な運動は行っていない。月に数回のわくわく体操が役立っているのでは？と、思ったりもしている。元気コース最後の授業日に、再度測定すること。何とか今の筋力数値が維持できるように心がけ、健康長寿につなげていきたいと思う。

佐倉市民カレッジ4年元気コース

(田村 千鶴子)